令和7年（暦年）建設工事事故報告書一覧表（１月～１２月）

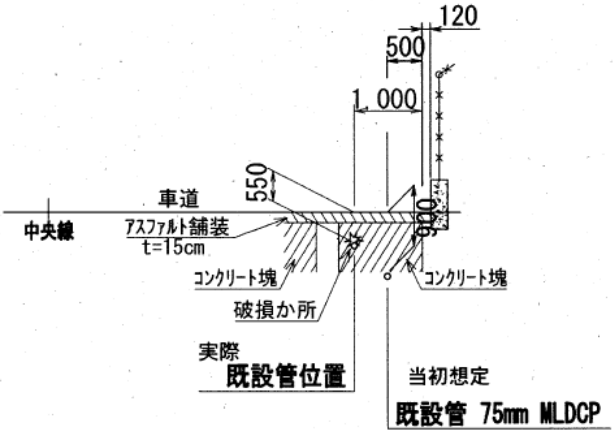
No.	事故発生日	工事区分	事故区分	建　設　事　故　内　容	発生状況概略図	
7-1	R7.1.23	土木	物損公衆災害	アスファルト舗装版直下のコンクリート魂（基礎構造物）を破砕中に、コンクリート魂の中に埋設されていた水道管φ75MLDCPに破砕機が接触し破損。	PDF	有
7-2	R7.2.17	土木	労働災害	水道管素地調整作業中にブラスト機械のノズルを誤って落下、加圧されたノズルが右足にあたり外傷。	PDF	有
7-3	R7.2.20	土木	物損公衆災害	管布設掘削中に既設管を残置管と誤り、エンジンカッターで配水管を損傷。	PDF	有
7-4	R7.4.23	土木	物損公衆災害	通水作業中に、給水管取付替えのため取付けたサドル付分水栓の閉止コックを締め忘れ、宅地内で漏水が発生。	PDF	有
7-5	R7.5.12	土木	その他	交通規制内において、歩行者による転倒事案が発生。	PDF	有
7-6	R7.5.20	土木	物損公衆災害	工事規制解除中、バイクが通行した際に道路路面とバイクの底部が接触しバイクが損傷。	PDF	有
7-7	R7.5.26	土木	物損公衆災害	掘削中に出現したビニル管にバックホウが接触し、残塩計測用配管を破損。	PDF	有
7-8	R7.6.30	土木	物損公衆災害	新旧管連絡の掘削作業中、不明管（鋼管φ30）に小さい穴を空け、圧のない水が出てきたため、残置された給水管と思い込み切断したところ街灯電気ケーブル、6基が消灯した。	PDF	有
7-9	R7.7.16	土木	物損公衆災害	新設管100mm管布設掘削作業中、既設給水管（φ25HIVP）のエルボ継手部が離脱した。	PDF	有
7-10	R7.8.7	土木	物損公衆災害	試掘調査掘削作業中に布設されていた給水管（φ25mmHIVP）のエルボ継手部（φ25mmVP）が離脱した。	PDF	有
7-11	R7.8.8	土木	労働災害	電気設備点検中に6600Vに感電した。	PDF	有
7-12	R7.9.2	土木	物損公衆災害	掘削作業中に布設されていた給水管の甲型分水栓φ25mmねじ込み部離脱による緊急断水。	PDF	有
7-13	R7.9.2	土木	物損公衆災害	バックホウを後退中、ブロック塀に接触し破損した。	PDF	有
7-14	R7.9.18	土木	物損公衆災害	新旧管連絡のため掘削作業委中に、給水管40mm（HIVP）を破損した。	PDF	有
7-15	R7.10.6	土木	その他	交通誘導警備員が嘔吐し転倒した。	PDF	有
7-16	R7.10.8	調査業務	物損公衆災害	探査車両が歩車道境界ブロックに接触した。	PDF	有
7-17	R7.10.14	土木	その他	交通誘導警備員が転倒した。	PDF	有
7-18	R7.12.1	土木	物損公衆災害	新旧管連絡掘削中に掘り方内に石積みが崩落した。	PDF	有
7-19	R7.12.8	土木	物損公衆災害	廃止管と思いビニル管（電気ケーブル）を切断した。	PDF	有
7-20	R7.12.12	土木	物損公衆災害	給水管取付替えのためバックホウにて掘削中に街灯ケーブルを切断した。	PDF	有

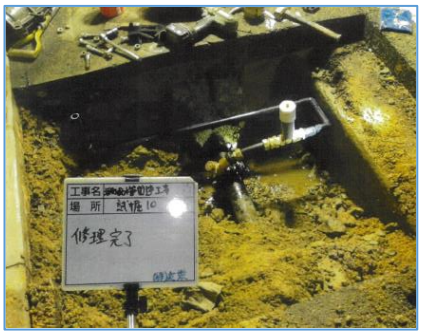
発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－１	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	配水管破損		工事区分（工種）	試掘工
職　　種	土木		発　生　年　月　日	令和７年１月２３日

試掘工に伴い、アスファルト舗装版直下のコンクリート塊（基礎構造物）を破砕中に、コンクリート塊の中に埋設されていた水道管φ75MLDCP に破砕機が接触し破損。

〔状況図〕





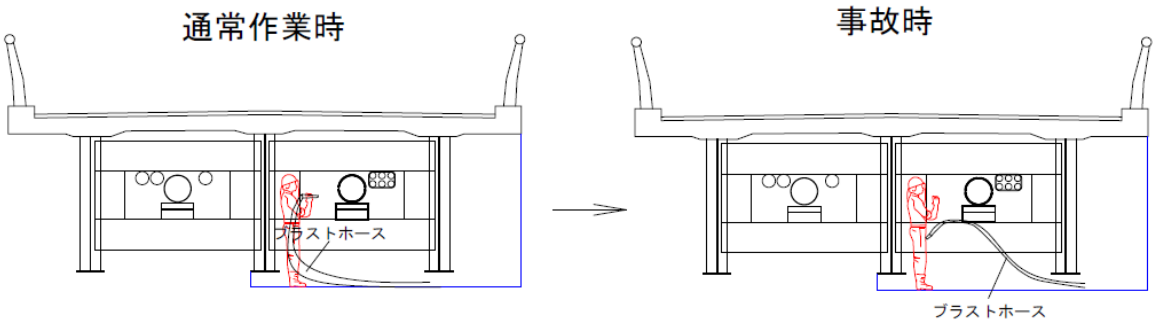
要因	人　的	思い込みによる確認不足。	対策	コンクリート魂を基礎の構造物との思い込みや付近の埋設深さ状況による思い込みをしない。
	物　的	―		
	管理的	―		
原　因		付近の土被りから埋設深さは１メートル以上あると思い込みによる確認不足。		

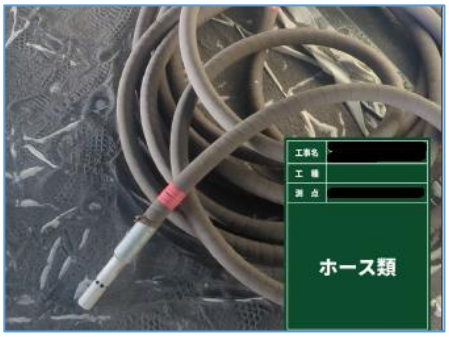
発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－２	事故分類	労働災害	
被災内容	左足大腿挫創		工事区分（工種）	塗装工
職　　種	土木		発　生　年　月　日	令和７年２月１７日

ブラスト（素地調整）作業中、移動するときに誤ってブラストホースのノズルが手から離れてしまい、加圧されたノズルが左足大腿に直撃し被災した。

〔状況図〕





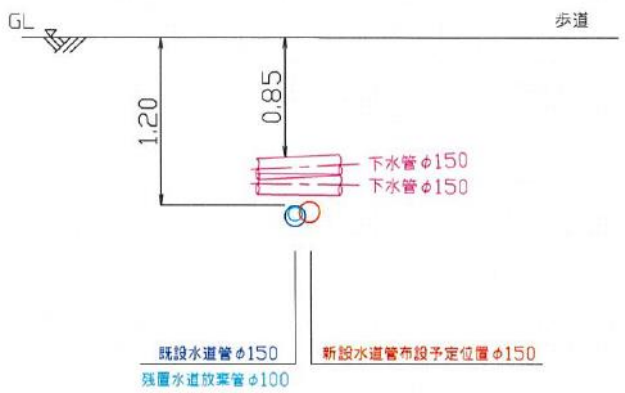
要因			対策
	人　的	慣れ、気の緩み、不注意から生じるヒューマンエラー。	・日々の KY 活動及び朝礼にて安全対策の確認を徹底する。 ・ブラスト機械の操作方法等の再教育を行う。 ・迅速に機械停止できるようスイッチを作業員に固定する。 ・作業服の改善を図る。
	物　的	―	
	管理的	―	
原　因		被災者は経験が豊富であり、慣れや気の緩み、不注意から生じたのと思われる。	

発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－３	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	配水管損傷		工事区分（工種）	管布設工事 150GXPEDCP
職　　種	土木		発　生　年　月　日	令和７年２月２０日

管布設路線には、既設管水道管と残置管水道管が埋設されている路線であった。
不明鋳鉄管が確認されたため残置管の確認作業後、エンジンカッターで切断・残置管撤去作業を行っていた。その後、同様に支障となる不明管が確認され、連続していると思われる位置に埋設されていたことから残置管と思い込みエンジンカッターで既設管を損傷した。

〔状況図〕



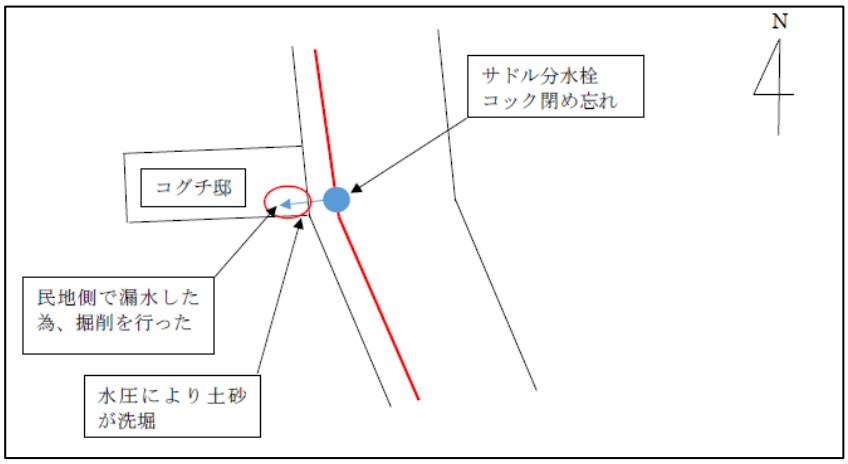
要因			対策	
	人　的	思い込みによる確認不足。		施行中に不明管を発見した場合は、完成図や現地をよく照査するとともに、地下埋設物占用者に確認依頼し不明管の確認について徹底する。
	物　的	―		
	管理的	―		
原　因		既設管にはポリスリーブ及び明示テープが未設置であったこと。残置管の埋設位置の思い込みによる確認不足。		

発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－４	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	漏水		工事区分（工種）	管布設工事 150GXPEDCP
職　　種	土木		発　生　年　月　日	令和７年４月２３日

通水作業中に、給水管取付替えのため取付けたサドル付分水栓の閉止コックを締め忘れ、宅地内で漏水が発生した。

〔状況図〕



要因	人　的	思い込みによる確認不足。	対策	・事故防止対策周知会（工事現場内）の実施。 ・サドル分水栓を穿孔後、２次業者の職長が確認を行い、１次業者の職長に報告、その後に現場代理人に報告、最終確認を３人で行う。
	物　的	―		
	管理的	―		
原　因		サドル分水栓を穿孔後に、閉止コックを閉めたと思い込んで確認を行わなかった。		

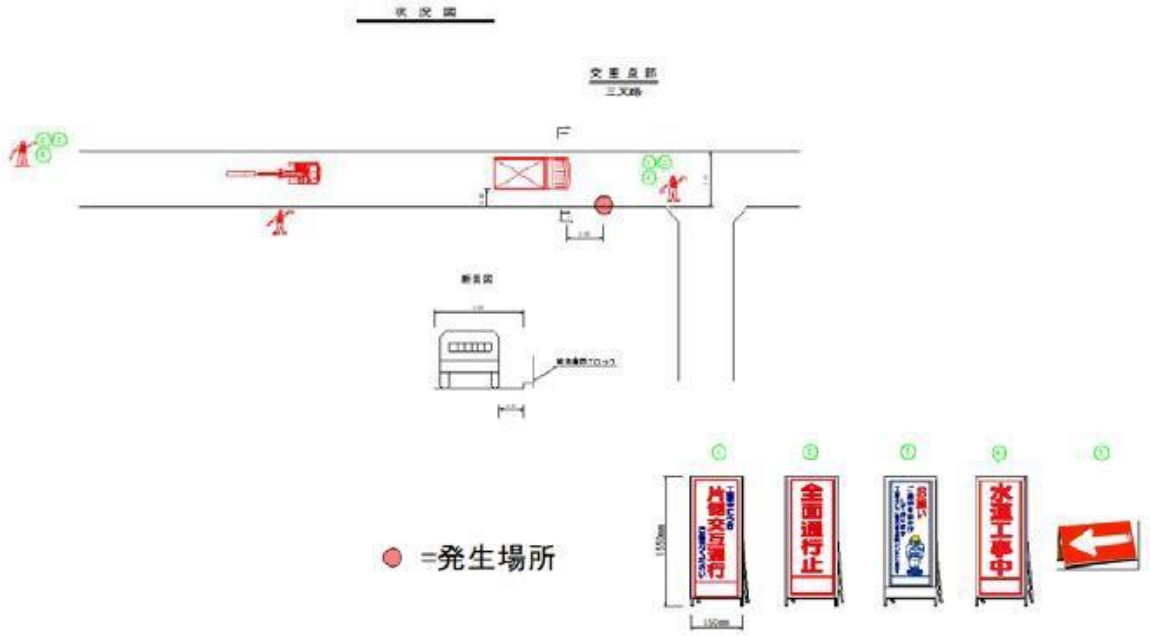
発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－５	事故分類	その他	
被災内容	歩行者転倒		工事区分（工種）	仮舗装（管布設工事）
職　　種	土木		発 生 年 月　日	令和７年５月１２日

〔事故の概要〕

本管布設後、仮舗装の作業準備中に、小学生が通行するため作業を一時中断するよう交通誘導警備員から合図があり、道路幅員 3.1mの場所でダンプを停止させて通行を待っていたところ、ダンプ横を小走りで通り抜けようとした小学生が境界ブロックの上を踏み外し、バランスを崩して転倒した。

〔状況図〕



要因	人　的	誘導の指示が弱かった。小学生が走り出すことを予想していなかった。	対策	歩行者を通行させる際は、作業を一時中断し、通行の妨げとなる工事車両、資機材等は移動させ、通行帯を確保してから通行を再開する。また、工事車両等の待機所に現場前の空き地を手配する。 小学校へ工事場所を通行する際には交通誘導警備員の指示に従い通行してもらうよう改めて依頼する。
	物　的	ダンプを停車させていた。		
	管理的	なし		
原　因		下校中の小学生を誘導する際に、交通誘導警備員が個別誘導していたものの、走り出す状況を止められなかった（歩いて通行させられなかった）。		

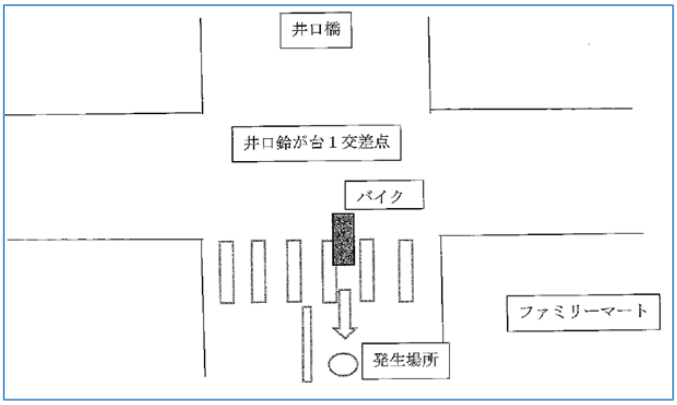
発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－６	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	車両（バイク）損傷		工事区分（工種）	管布設工事 300GXPEDCP
職　　種	土木		発　生　年　月　日	令和７年５月２０日

〔事故の概要〕

工事規制解除中、仮舗装に段差ができバイクが通行した際に道路路面とバイクの底部が接触しバイクが損傷した。

〔状況図〕



段差箇所

要因			対策	
	人　的	転圧不足		転圧時には、細部にわたり目視等にてよく確認し、入念な転圧を行う。
	物　的	―		
	管理的	転圧確認不足		
原　因		埋設物下越し部（既設管部分下側）等の転圧不足。		

発生状況概略図（説明図）

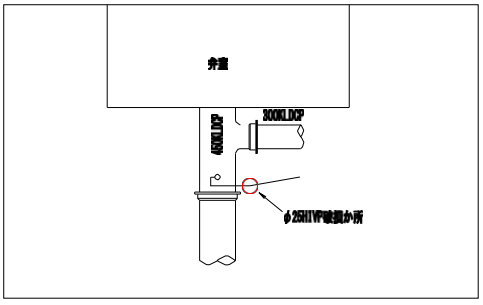
事例番号	Ｒ７－７	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	Φ25 残塩測定用配管破損		工事区分（工種）	準備工（試掘工）
職　　種	試掘工		発 生 年 月　日	令和７年５ 月２６ 日

〔事故の概要〕

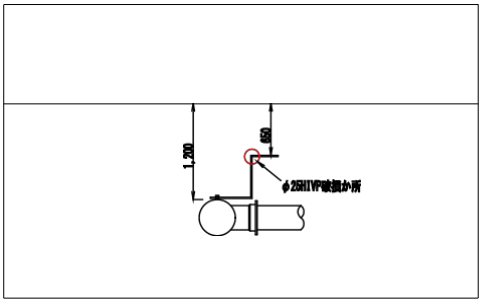
試掘施工中に、出現したビニル管（φ25HI）にバックホウが接触し、破損（漏水）した。不用管との情報共有であったが、結果的に運用中の残塩計測用配管であった。

〔状況図〕

平面図



断面図



要因			対策
	人　的	既設配管の配管状況及び通水状況の誤認	・受発注間の情報共有を密にし、書面で残す等確実に行う。 ・既存資料による地下埋設物調査を再度行い、埋設状況や運用状況の把握に努めるとともに、想定外の埋設物へ注意を払い、慎重な掘削を心掛ける。
	物　的	想定外の埋設状況	
	管理的	－	
原　因		・受発注者間の情報共有不足 ・想定外の埋設物及び埋設状況に対する注意・配慮不足	

発生状況概略図（説明図）

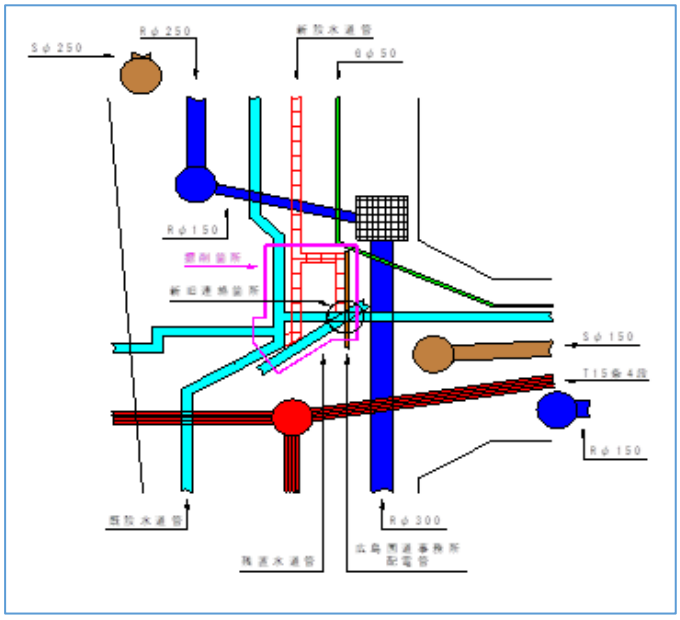
事例番号	Ｒ７－８	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	街灯ケーブル(配電線の)切断		工事区分（工種）	新旧管連絡工
職　　種	土木		発　生　年　月　日	令和７年６月 30 日

〔事故の概要〕

新旧管連絡工に伴う掘削作業中、事前調査では、水道管以外の埋設物はなく、図面にも記載がなかったが、鋼管φ30（不明管）が確認された。

不明管が支障となるため、ドリルで小さく穴を開け、安全確認を行い、圧のない水が出てきたため、残置管であると最終判断し、切断。直後、現場に隣接する街灯（6 基）が消灯した。

〔状況図〕



要因	人　的	電気ケーブルが存在する可能性を考慮していなかった。	対策	・不明管が水道の残置管であると想定できる場合は切断等する前に水道局に確認する。 ・道路管理者（市役所・区役所の道路課など）や電力会社、ガス会社など、関連するすべての事業者の図面を複層的に確認する。 ・街灯・信号・看板といった地上設備がある場合は、必ずその電源系統に関する図面を確認する。
	物　的	―		
	管理的	占用協議の確認不足。		
原　因		地下埋設物の協議を行う必要があった。 露出した埋設物をよく確認する必要があった。		

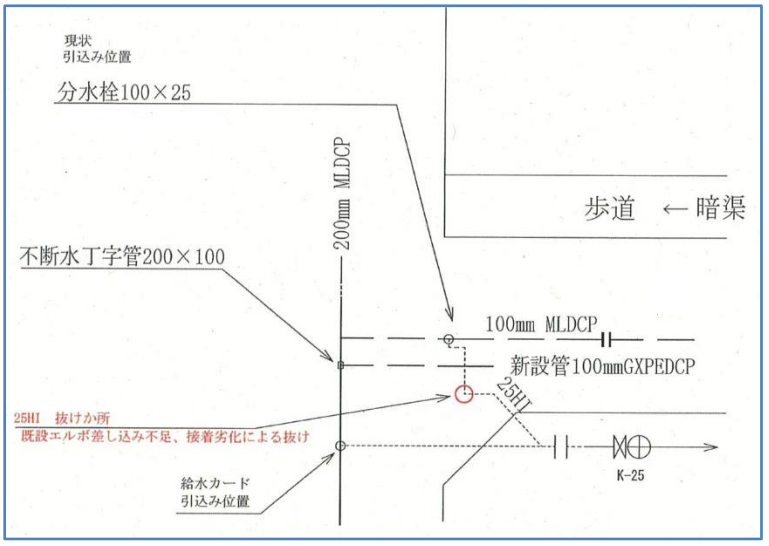
発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－９	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	Φ25 給水管継手部離脱		工事区分（工種）	管布設工100mmGXPEDCP
職　　種	土木		発 生 年 月　日	令和７年７ 月１６ 日

〔事故の概要〕

新設管100mm管布設掘削作業中に、既設給水管（φ25HIVP）のエルボ継手部が離脱した。

〔状況図〕



要因			対策
	人　的	－	・必要以上に給水管を露出させない。 ・やむを得ず露出させる場合は、露出時間を最小限に抑える。
	物　的	－	
	管理的	－	
原　因		・既設給水管継手部（エルボ）の挿入が不十分、接着の劣化と思われる。	

(施工)R1.5 改 A4

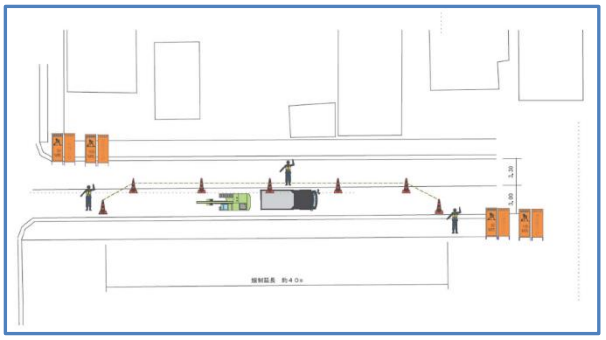
発生状況概略図（説明図）

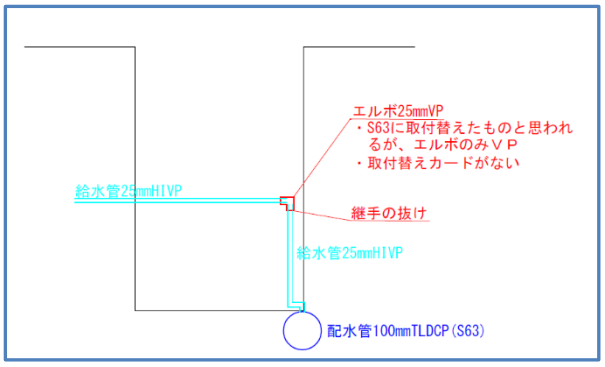
事例番号	Ｒ７－１０	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	Φ25 給水管継手部離脱		工事区分（工種）	管布設工100mmGXPEDCP
職　　種	土木		発 生 年 月　日	令和７年　８月　７日

〔事故の概要〕

試掘調査掘削作業中に布設されていた給水管（φ25mmHIVP）のエルボ継手部（φ25mmVP）が離脱した。

〔状況図〕





要因			対策
	人　的	－	・必要以上に給水管を露出させない。 ・やむを得ず露出させる場合は、露出時間を最小限に抑える。
	物　的	－	
	管理的	－	
原　因		・既設給水管継手部（エルボ）の接着不十分及び劣化と思われる。	

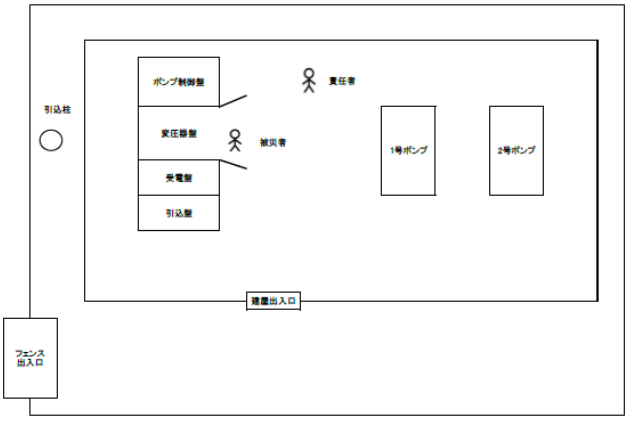
発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－１１	事故分類	労働災害	
被災内容	感電		工事区分（工種）	保守点検整備
職　　種	電気		発 生 年 月　日	令和７年　８月　８日

〔事故の概要〕

高圧受変電設備点検中に「主変圧器一次ヒューズ断」の警報を発報させるため、リレーを検知させる際に６．６ＫＶの充電部に右手指が触れ、右手指から肘まで感電した。

〔状況図〕



平面図・作業員配置図

写真1(変圧器盤全体)　写真2(事故現場)

要因			対策	
	人　的	停電状態の作業であると勘違い		・現場表示の確認及び信号のやり取りの確認。 ・警報試験の発報方法の明確化。
	物　的	操作器具の不使用		
	管理的	現場表示等の確認不足		
原　因		当該設備が停電していると勘違いし、操作器具を使用しなかったこと。		

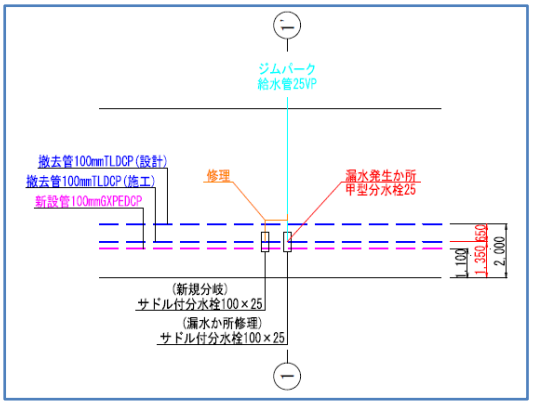
発生状況概略図（説明図）

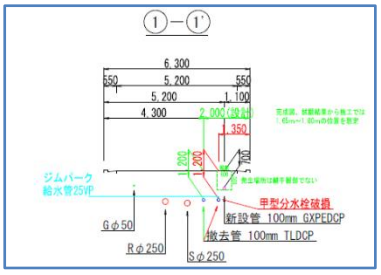
事例番号	Ｒ７－１２	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	甲型分水栓ねじ込み部離脱		工事区分（工種）	管布設工100mmGXPEDCP
職　　種	土木		発 生 年 月　日	令和７年　９月　２日

〔事故の概要〕

掘削作業中に出水を確認。調査の結果、布設されていた給水管の甲型分水栓φ25mmねじ込み部が離脱しており緊急断水を行った。

〔状況図〕





要因			対策	
	人　的	掘削作業時の振動		今後とも地下埋設物の破損に対して、より一層、慎重に事前調査や作業等の物事を進めていくように努める。
	物　的	甲型分水栓の経年劣化		
	管理的	－		
原　因		甲型分水栓の経年劣化に合わせ、掘削作業時の振動によるものと思われる。		

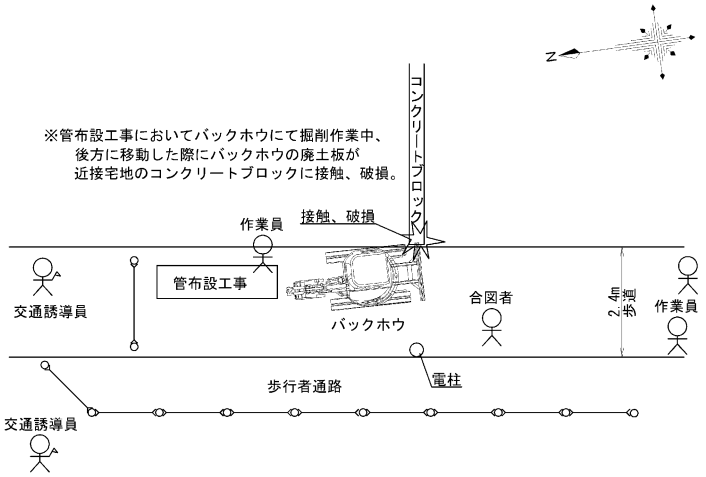
発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－１３	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	ブロック破損		工事区分（工種）	管布設工150mmGXPEDCP
職　　種	土木		発 生 年 月　日	令和７ 年９ 月２ 日

〔事故の概要〕

管布設のため、狭所にてバックホウによる夜間掘削作業中、後方に移動した際にバックホウの廃土板が近接宅地のブロックに接触し破損した。

〔状況図〕



要因	人　的	・オペレーター及び作業員の周囲確認不足 ・オペレーターと合図者との伝達ミス	対策	・作業前ミーティングにて当日の作業範囲での危険個所の確認を行い、作業員全員で共有する。 ・オペレーターは後方への移動の際は、事前に周囲の確認を徹底する。 ・オペレーターは機械移動の際、事前に合図者と移動方向や接触の恐れのある近接した構造物について、相互に確認を行う。 ・合図者は、オペレーターから見えやすい位置で誘導する。
	物　的	・狭所での夜間作業		
	管理的	―		
原　因		・狭所での夜間作業であり、オペレーターの周囲確認不足と合図者との伝達ミスが重なったため。		

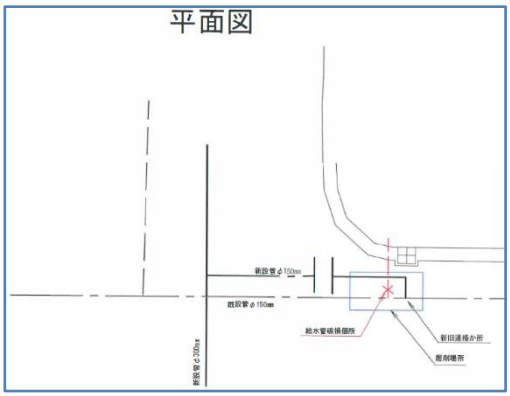
発生状況概略図（説明図）

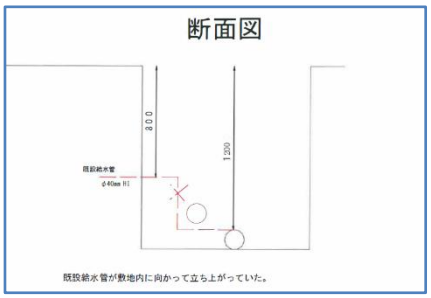
事例番号	Ｒ７－１４	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	既設給水管破損		工事区分（工種）	管布設工150 ㎜GXPEDCP
職　　種	土　木		発 生 年 月　日	令和 ７年９ 月１８日

〔事故の概要〕

試掘調査において、既設給水管φ40 ㎜ HIVP の土被り（H=1.2m）を確認したため、給水管付近は土被り 1.0mまでを機械掘削、それ以深を手掘りで施工していたが、既設給水管が途中からｈ=0.8ｍで立ち上がっていたため、機械による掘削土に押され既設給水管を破損した。

〔状況図〕





要因			対策	
	人　的	試掘時深さの過信		今後は、地下埋設物近くを掘削する時は、慎重に早目に人力掘削で確認する。
	物　的	―		
	管理的	地下埋設物近くは慎重に掘削する。		
原　因		試掘時の土被りを過信した為		

発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－１５	事故分類	その他	
被災内容	交通誘導警備員嘔吐		工事区分（工種）	試掘工
職　　種	土木		発 生 年 月　日	令和７年１０月　６日

〔事故の概要〕

試掘工の際、交通誘導を行っていた誘導員が嘔吐して倒れ、緊急搬送した。

〔状況図〕

状況図なし

要因	人　的	自己の健康管理の不備	対策	今後は、朝礼時の健康管理をより徹底し、作業中においても作業従事者間で体調を確認し合うようにする。
	物　的	－		
	管理的	－		
原　因		自己の健康管理の不備		

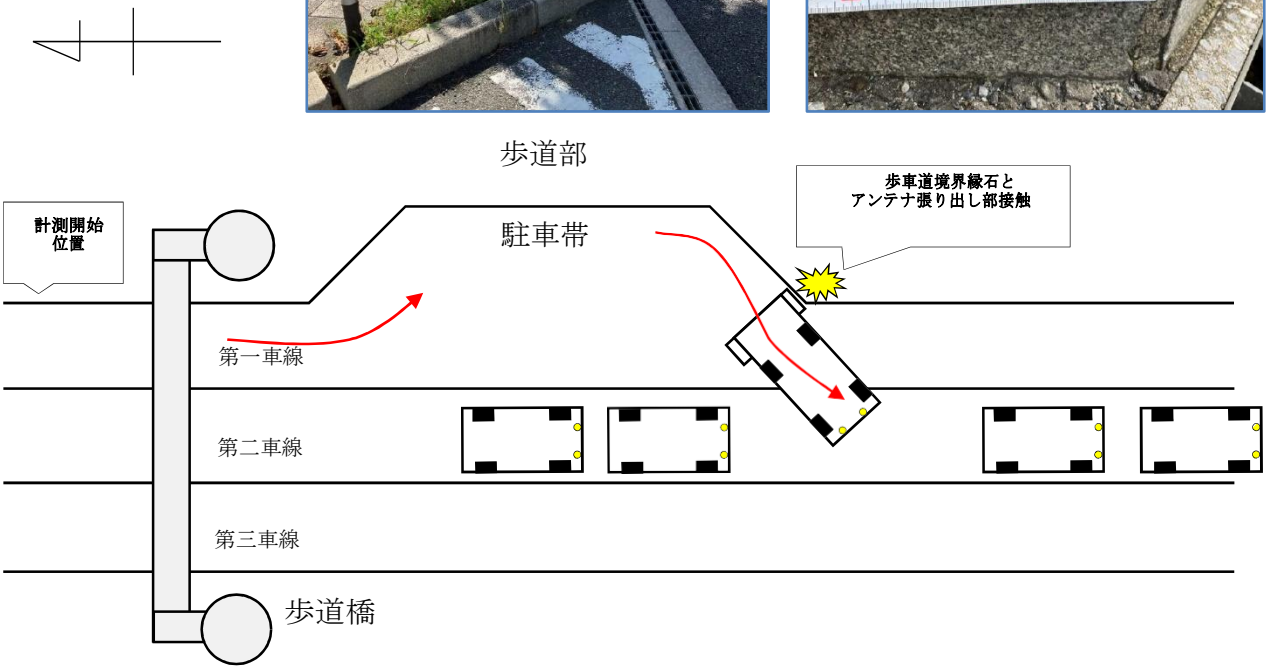
発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－１６	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	歩車道境界縁石接触		工事区分（工種）	現地計測
職　　種	調査業務		発 生 年 月 日	令和 ７ 年１０ 月 ８ 日

〔事故の概要〕

本線部の信号が変わり前方車両が走行し始めたため、本線後方から来る車両に注意を払いながら前進したところ、車両左後方のアンテナ張り出し部と歩車道境界の縁石が接触した。

〔状況図〕



要因			対策
	人　的	現場担当者間の連携	計測時は縁石や障害物に対し余裕を持った間隔をとり走行を行う。 当該箇所と近似した場面を計測する際は、通勤時やお昼、退勤時間など交通量が増加する時間帯を避けた計測予定を立てる。 また、計測時は、本線合流する際に他車両がいないことを確認し、アンテナ張り出しを閉じて走行する。 走行中は助手席オペレーターも周囲の状況を確認し、運転手に注意喚起を図り相互連携をとる。
	物　的	アンテナの張り出し	
	管理的	―	
原　因		合流時の本線後方からの車両に対する注意に意識が傾いたことと、後方に続く車両に対して速やかな合流を行うことへの焦りが重なったことによる車両左側への注意力の低下	

発生状況概略図（説明図）

事例番号	Ｒ７－１７	事故分類	その他	
被災内容	交通誘導警備員　転倒		工事区分（工種）	安全管理
職　　種	土　木		発　生　年　月　日	R7 年　10 月　14 日

〔事故の概要〕

新旧管連絡を施工するにあたり、片側交互通行規制で誘導中に交通誘導警備員1名が体調不良のため倒れ、救急車を要請し緊急搬送した。

〔状況図〕

要因	人　的	誘導員の持病	対策	作業開始前に、作業員全員の体調の状態を把握し、体調に異変を感じた場合は早めに申告するよう促す。 また、適宜休憩が取れるよう無理のない人員配置を行う。
	物　的	なし		
	管理的	なし		
原　因		医師の診断の結果、誘導員の持病に起因した体調不良と思われる。		

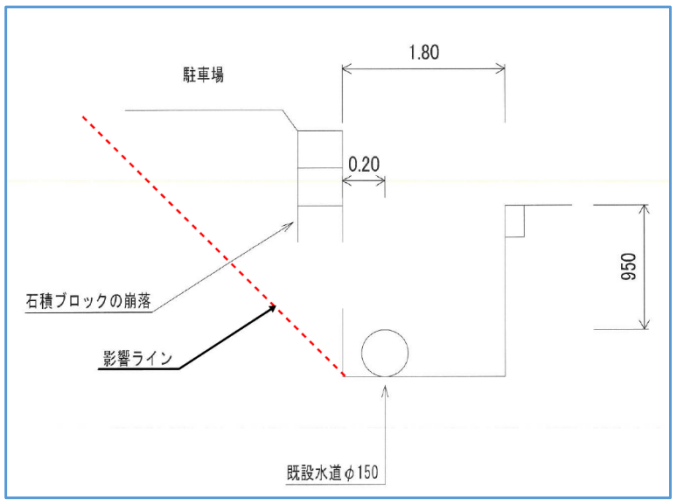
発生状況概略図（説明図）

事例番号	７－１８	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	石積崩落		工事区分（工種）	管布設工 150mmGXPEDCP
職　　種	土　木		発　生　年　月　日	令和７年１１月２９日

〔事故の概要〕

新旧管連絡のため機械掘削中に駐車場の石積ブロックが崩落した。

〔状況図〕



要因	人　的	埋設物が浅い為、安易に作業ができると決めつけていた	対策	始業前ミーティングにおいて、矢板設置作業手順の確認及び徹底を行う
	物　的	―		
	管理的	段階確認・周囲の確認不足		
原　因		作業従事者の確認不足及び自己判断の甘さ		

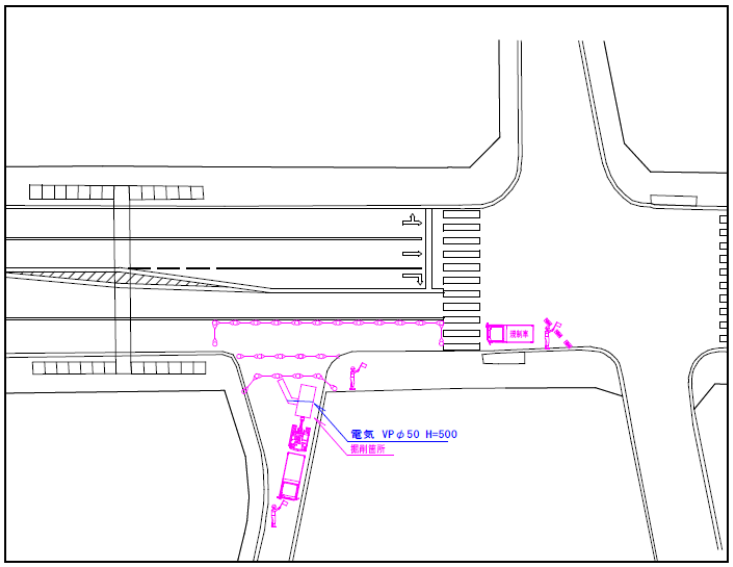
発生状況概略図（説明図）

事例番号	７－１９	事故分類	公衆物損災害	
被災内容	電気ケーブル切断		工事区分（工種）	管布設工 100mmGXPEDCP
職　　種	土　木		発　生　年　月　日	令和７年１２月８日

〔事故の概要〕

管布設のため掘削を行っていた際、不明管(ビニル管φ50)が出てきたため、小さな穴を開け水が出ないことを確認後、廃止された給水管と思い切断したところ、中に３本の電気ケーブルが入っていた。

〔状況図〕



要因			対策	
	人　的	水道管と思い込み管を切断してしまった		・掘削範囲内の地下埋設物立会時に把握を徹底する。 ・不必要に管を切断しない。
	物　的	掘削範囲内に不明管があった（掘削時に影響なし。）		
	管理的	掘削範囲内に地下埋設物立会時に把握できなかった管があった		
原　因		掘削範囲内の地下埋設物立会時に把握出来ていなかった。		

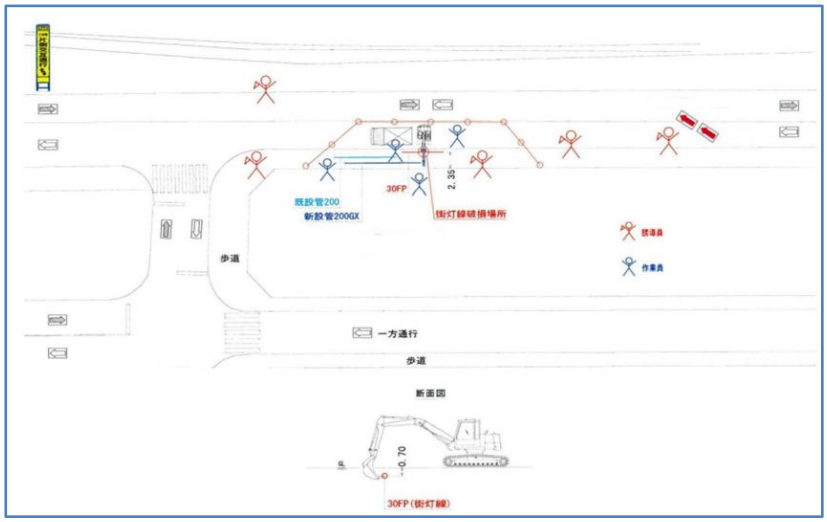
発生状況概略図（説明図）

事例番号	７－２０	事故分類	物損公衆災害	
被災内容	街灯ケーブル切断		工事区分（工種）	管布設工200ｍｍGXPEDCP
職　　種	土　工		発 生 年 月 日	令和 7 年 12 月 12 日

〔事故の概要〕

給水管取付替えのため、夜間バックホウにて掘削中に街灯ケーブルを切断した。

〔状況図〕



要因			対策	
	人　的	埋設管の確認不足		・段階確認の再徹底を作業従事者が全員で行う。 ・大丈夫であろうではなく、確実に目視確認の徹底。 ・安全対策を実施後、作業に取りかかることの徹底。
	物　的	―		
	管理的	資料・段階確認不足		
原　因		不用意に機械掘削を行ったこと。		